

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和3年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 203-0031

所在地 東京都東久留米市南町1-13-38

評価機関名 株式会社ふくし・ファーム

認証評価機関番号

機構 04 - 134

電話番号 03-3332-3334

代表者氏名 加藤 正樹

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①		経営	H0601051
	②		福祉	H2001058
	③		福祉	H1801008
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	ココファン・ナーサリー三鷹			
事業所連絡先	〒	181-0012		
	所在地	東京都三鷹市上連雀1丁目5-12		
	TEL	0422-54-2261		
事業所代表者氏名	宮坂静子			
契約日	2021年 6月 17日			
利用者調査票配付日(実施日)	2021年 10月 25日			
利用者調査結果報告日	2021年 11月 19日			
自己評価の調査票配付日	2021年 9月 3日			
自己評価結果報告日	2021年 11月 19日			
訪問調査日	2021年 11月 29日			
評価合議日	2021年 12月 6日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事前説明には、評価の理解を深めて頂く為、評価の全体像や具体例を用いた判りやすい資料を作成し、丁寧に説明を行いました。事業評価においては、自己評価の事実確認に徹し、第三者性の担保に配慮しました。また、利用者調査および事業評価の集計結果は、独自開発による集計シートを用い、グラフ・表によりわかりやすく報告しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

<p>1</p>	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>保育理念 すべての人が心ゆたかに生きることを願い、今日の感動・満足・安心と明日への夢・希望を提供します ＜保育方針＞ 1.子どもの養護と教育を両輪とした、子ども主体の心と体の育ちの支援 2.子どもの一人ひとりの認知発達に応じた、個別の発達支援 3.地域社会のすべての子育て家庭に対する、様々な取り組みによる育児支援 ＜保育目標＞ 1.基本的な生活習慣が確立した子 2.心も体も自立した子 3.自律した行動がとれる子 4.他人に対する思いやりと寛容な気持ちを抱き、援助ができる子 ＜取り組み＞ 1.子どもが本来持っている「育ちのチカラ」を伸ばします 2.子どもの主体的な活動を援助し、子どもの発達を促します 3.養護と教育の一体化を実践し、家庭と連携します</p>
<p>2</p>	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割 ＜子どもや保護者、職員、すべての人の最善の利益を考え実現するマインドを持つ＞ 園全体でマインドを共有し、前向きな支援を常に考えていく。 多様性を認め合う環境 ＜みんなちがってみんないい＞ 得意、不得意はだれにもあるため、お互い助けあうマインドの実現</p> <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ①子どもの主体的な活動を促す環境になっているのか？ ②子どもの自発的な活動としての遊びや学びを保障する環境になっていただろうか？ ③子ども一人ひとりの個性にあった環境になっているだろうか？ ④人との関わりを大切にしている環境になっているだろうか？ ⑤子どもにも職員同士でも多様性を認められるているか？</p>

調査対象	調査対象は、在園児の保護者全員を対象とし、複数のお子さんが通っている場合は最年少児について、1世帯1回答のご回答をいただきました。 [調査対象世帯数:51世帯(在園児65名)]		
調査方法	園より保護者全員に調査票を配布して頂きました。回収については、評価機関への郵送、または園内に設置した回収箱への投函により提出して頂くようにしました。		
利用者総数	65		
利用者家族総数(世帯)	51		
共通評価項目による調査対象者数	51		
共通評価項目による調査の有効回答者数	39		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	76.5		

利用者調査全体のコメント

「現在利用している保育園を総合的にみて、どのように感じいらっしゃいますか」との質問に対して、「大変満足」17.9%、「満足」74.4%、「大変満足」と「満足」を合わせて92.3%の回答率となっています。「どちらともいえない」7.7%、「不満」0%、「大変不満」0%、無回答が0%でした。園のサービスに対する保護者の満足度がたいへん高いことが確認されました。個別設問では、問2「園活動への興味や関心を示し、学びや遊びを楽しんでいるか」について「はい」の回答率が100%で最も高く、問17「外部の苦情窓口にも相談できることを伝えられているか」では「はい」の回答率が31%と最も低くなっています。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	28	9	1	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の71.8%を占め、「どちらともいえない」が23.1%、「いいえ」が2.6%、「無回答+非該当」は2.6%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	39	0	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の100%を占め、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、満足を示す声が複数寄せられました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	33	6	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の84.6%を占め、「どちらともいえない」が15.4%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	32	4	2	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の82.1%を占め、「どちらともいえない」が10.3%、「いいえ」が5.1%、「無回答＋非該当」は2.6%という結果でした。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	18	4	8	9
この項目では、「はい」と答えた方が全体の46.2%を占め、「どちらともいえない」が10.3%、「いいえ」が20.5%、「無回答＋非該当」は23.1%という結果でした。自由記述では、「延長保育への対応」について改善を期待する声が複数寄せられました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	35	3	0	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の89.7%を占め、「どちらともいえない」が7.7%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は2.6%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	24	10	3	2
この項目では、「はい」と答えた方が全体の61.5%を占め、「どちらともいえない」が25.6%、「いいえ」が7.7%、「無回答＋非該当」は5.1%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	25	13	0	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の64.1%を占め、「どちらともいえない」が33.3%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は2.6%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	28	8	1	2
この項目では、「はい」と答えた方が全体の71.8%を占め、「どちらともいえない」が20.5%、「いいえ」が2.6%、「無回答＋非該当」は5.1%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	37	2	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の94.9%を占め、「どちらともいえない」が5.1%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	37	2	0	0
この項目では、「はい」と答えた方が全体の94.9%を占め、「どちらともいえない」が5.1%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、「緊急時の丁寧な対応」について満足を示す声が複数寄せられました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	25	10	0	4
この項目では、「はい」と答えた方が全体の64.1%を占め、「どちらともいえない」が25.6%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は10.3%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	35	3	0	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の89.7%を占め、「どちらともいえない」が7.7%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は2.6%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	32	5	0	2
この項目では、「はい」と答えた方が全体の82.1%を占め、「どちらともいえない」が12.8%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は5.1%という結果でした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	21	12	5	1
この項目では、「はい」と答えた方が全体の53.8%を占め、「どちらともいえない」が30.8%、「いいえ」が12.8%、「無回答＋非該当」は2.6%という結果でした。自由記述では、「説明を聞く機会がないこと」について改善を期待する声が複数寄せられました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	23	9	0	7
この項目では、「はい」と答えた方が全体の59%を占め、「どちらともいえない」が23.1%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は17.9%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	12	7	17	3
この項目では、「はい」と答えた方が全体の30.8%を占め、「どちらともいえない」が17.9%、「いいえ」が43.6%、「無回答＋非該当」は7.7%という結果でした。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	新しい運営理念に基づき、保育・保護者・環境などの視点で方策を検討しています 入職時の研修や法人の保育を示した「運営ガイドライン」や「学研アプローチシート」によって、保育理念「すべての人が心ゆたかに生きることを願い今日の感動・満足・安心と明日への夢・希望を提供します」や基本方針が職員に浸透し、法人の目指す保育が遵守されるように取り組んできました。一方、前年度における経営トップの交代に伴い、法人のスローガンを「子どもFirst」としました。「質の高い保育・保護者理解・環境構成・職員の定着・地域連携」の視点で法人内にプロジェクトを設け、理念を実現する方法を検討しています。	
	子どもが本来持っている「育ちのチカラ」を伸ばす保育をアピールしています 「育ちのチカラ」を伸ばす保育方針を「子どもの養護と教育を両輪とした、子ども主体の心と体の育ちの支援／子ども一人ひとりの認知・発達に応じた個別の発達支援／地域社会のすべての子育て家庭に対する様々な取り組みによる育児支援」と掲げるとともに、保育目標を「基本的な生活習慣が確立した子／心も体も自立した子／自律した行動がとれる子／他人に対する思いやりと寛容な気持ちを抱き、援助ができる子」と示しています。家庭との連携を図り、子どもたち一人ひとりの個性に光を当てる保育に取り組んでいます。	
	園独自に「お互いを認めあいチャレンジできる場所」を今年目標としています 法人内共通の考え方に対し、園独自に今年目標を「お互いを認めあいチャレンジできる場所(一人ひとりの気持ちを大切に)」と設定しています。そして、「子どもが主体的に活動できる環境の構造化」と「子どものやりたい気持ちの尊重」に取り組んでいます。そのような方針に沿って、日々の保育に関する事柄などの重要案件は、リーダー会議や職員会議で決定しています。また利用者には、園だよりや掲示、内容により個々の利用者にお知らせの文書を手渡しして伝えています。そのほか、地域に関係した案件の場合には、園の外壁に掲示して伝えています。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半年・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>把握した利用者・職員・地域のニーズを職員会議で報告し、対応を検討しています</p> <p>利用者のニーズは保護者アンケートや運営委員会において、職員のニーズは個別面談と日常の会話により、それぞれ把握しています。特に園運営を話し合う運営委員会には各クラスの保護者代表が出席しており、意見交換によりニーズを吸い上げる好機としています。また、地域の福祉ニーズは所属自治体の私立園長会に参加した際や民生児童委員との連携などにより把握し、職員会議で報告しています。さらに、保育事業に係る最新情報を得るために、業界紙や保育書籍を購読しています。市や都が主催している研修から、行政の動向をも把握しています。</p> <p>法人の中・長期計画に基づいて、園の中期事業計画と単年度事業計画を策定しています</p> <p>法人の中・長期計画に基づいて園の中期計画(3年度分)と単年度事業計画を策定しており、単年度事業計画は玄関閲覧ファイルに綴じて誰でも閲覧出来るようにしています。中期計画は保育や職員育成など5項目については、3年後の姿を現在の姿と対比して示しています。併せて、園長は単年度事業計画を年度初めに策定するとともに、予算を編成しています。予算の月額額は定額まで園の裁量で執行できるようになっています。事業の進捗状況は年度末に総括して事業報告書を作成し、次年度の事業計画に反映させています。</p> <p>職員体制の充実とキャリア育成により、子ども主体の保育の実現を目指しています</p> <p>現在の重点課題について、職員体制の充実と安定したキャリア育成を掲げています。その実現に向けて、単年度事業計画および全体的な計画を見直すとともに職務分担表を作成し、細部にわたり職員個々の役割を確認しました。同時に、最も優先順位が高い目標として、子ども主体の保育の実現を挙げています。事業計画の進捗状況を職員会議において確認するとともに、必要に応じて見直しを検討しています。最近ではコロナ禍における運動会の開催方法を見直しました。予算や決算の状況は、職員インフォメーションファイルや職員会議で共有しています。</p>		

3 カテゴリー3		
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリ3の講評

職員として守るべき法や規則について、入職時以降に学びの機会を設けています
 法人職員または保育職員として守るべき法や規則についてまとめた書類として、コンプライアンスコード・就業規則・服務規程を整備し、鍵付き書庫に保管しています。また入社時に守秘義務誓約書を取り交わすとともに、入職後にeラーニングを実施して理解を深めています。さらに、年2回の期待役割面接において理解度を確認し、必要に応じて個別に研修の受講を促しています。そのほか、ガイドライン研修(内部)と自治体などが主催する虐待などをテーマとした外部研修を通じて、子どもの人権に関する知識を深める機会としています。

苦情解決の仕組みを整備し、入園説明会での説明や園内掲示により保護者に伝えています
 苦情解決制度の仕組みについては、入園説明会や園内掲示で利用者に伝えています。園内掲示では苦情解決の流れをフローチャートで示すとともに、第三者委員の氏名も明記しています。また利用者から意向や要望を伝えられた際は、運営ガイドラインに沿って対応しています。園は、保護者からの意見・要望には引き続き個別に対応し、信頼関係を築いていきたいと考えています。

情報公開の取り組みや地域ネットワークへの参加により、地域との関係性を深めています
 地域との関係を紡ぐために、玄関ファイルや園内掲示で全体的な計画を公開し、運営の透明性を確保しています。また、実習生やボランティア、学生・生徒・児童の職場体験の受け入れ体制を整えており、次世代の育成に取り組んでいます。最近受け入れたボランティアには、お話の会や歯磨き指導の機会に協力を受けました。さらに子育て支援事業として、園見学の際の育児相談を実施しています。そのほか、園長が毎月開催される私立園長会に参加しています。

カテゴリ4

4 リスクマネジメント

サブカテゴリ1(4-1)

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
-----------------------	-------------------------	------------

評価項目1
 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>新型コロナウイルス感染症の流行に対処する日々が続いています</p> <p>運営に係るリスクのうち、「感染症予防」を最優先のテーマとして対策に取り組んでいます。休園や登園自粛の要請の仕方、行事の開催方法など、保護者と地域に対する理解を得られるような説明の方法や対策を模索する日々が続いています。次いで、「災害対策」と「不審者対策」を重視しています。感染症・衛生管理および危機管理などの項目により「運営ガイドライン」をまとめるとともに、職員会議で対策を検討しています。今後に向けて、危機管理において地域との連携・協力体制を作り、情報交換を行っていきたく考えています。</p> <p>自然災害・人為災害・感染症を想定した事業継続計画(BCP)を作成しています</p> <p>事業継続計画(BCP)は、自然災害・人為災害・感染症を想定して作成しています。復旧期間を3日間、対策本部は本社ビルに置くこととしています。そのようなBCPの内容を職員に伝えるために、危機管理研修を実施するとともに、利用者には運営委員会で説明しています。その上で、危機管理マニュアルやBCPを鍵付きの書庫に保管しています。一方、事故・感染症・侵入・災害などが発生した際は、事故怪我報告書および保健日誌に記録しながら発生要因を分析して、再発防止に努めています。</p> <p>アクセス権限の付与や鍵付書庫・クラウドの活用により、適切な情報管理に努めています</p> <p>情報管理規程や文書管理規程の遵守について、職員はe-ラーニングおよびガイドライン研修を受講するとともに、誓約書を取り交わしています。個人情報や気密性の高い情報を含む文書は、鍵付きの書庫に保管するとともに、文書管理一覧表で持ち出しや返却状況を確認しています。一方、デジタルデータはクラウドに保存しています。また、PCのセキュリティ管理は園長が責任者となり、アクセス権限とそれに伴うログインパスワードを設けています。なお、ログインパスワードは定期的に更新しています。</p>		
カテゴリ-5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当

評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
		3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー5の講評		
<p>キャリアパスシートを示しつつ、人材育成計画に沿ってキャリア育成を支援しています</p> <p>法人または園が求める職員像については、求人票やガイドラインで示しています。また求職者の応募を促す工夫として、インターンシップを受け入れています。現在は職員の経験年数を高めたいと考えているため、実務経験があり自己肯定感が高い人材を求めています。キャリアパスシートの内容は、法人ホームページや会社説明会でも紹介する他、入職時研修であらためて説明しています。入職後は、初任者研修・リーダー研修などを受講するとともに、個別面接を経て作成した期待役割シートに沿ってキャリア育成を支援しています。</p> <p>研修成果を園全体で共有するとともに、職員主体の研究グループを設けています</p> <p>職員が受講した研修内容は、職員会議において報告し、学びの内容を全体で共有しています。また職員の日頃の気づきについても、職員会議や昼の会で意見交換しています。加えて、「保護者支援・子ども主体の保育・各行事の役割分担」をテーマに、研究グループを設けています。そのようなプロセスを経て、乳児に個別の座布団を用意したり、段ボールを使ったリソーススペース(気持ちを落ち着けることが出来る空間)を設けた実績があります。研究成果は報告書にまとめ、職員全体で共有しています。</p> <p>園長は職員の目標管理を支援しつつ、職場内の良好な人間関係を育もうとしています</p> <p>人事考課および職務申告制度の規程に沿って、職員の目標を管理しています。職員が掲げた目標の達成状況は、10月と2月の年2回、園長による個別面接で確認しています。併せて、自己評価チェックシートも活用しています。なお、有給休暇は、職員の希望を確認し調整しています。出産・育児休暇の取得実績も確認しました。園長は職員間の良好な人間関係を育みつつ定着率を高めるために、互いに多様性を認めるとともに、助け合いのマインドを持つよう働きかけています。</p>		

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度、重要課題の一つとして「職員体制の充実」を取り上げています。その背景として、職員の体調管理とキャリア育成の両面で支援の仕組みが機能していないことと分析しています。そのような課題の解消に向けて、法人本部と連携し、常勤職員の補充に取り組んでいます。就職フェアへの出展や学校訪問を行い、職員の採用につなげました。併せて、派遣社員を活用するための予算を計上しました。現状について、まだ成果は十分に得られていないと捉えており、引き続き常勤職員の採用を推し進めていく意向を示しています。特に、今年度中に1歳児クラスを担当する常勤職員を補充したいと考えています。今後はインターンシップの導入や職員紹介制度の拡充にもチャレンジしていく予定です。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

職員の採用に向けて意欲的に取り組む一方、就労者にとっての利点を示すことが必要と思われます。乳児保育の充実に向けて、キャリアの高い職員を求めることに対してそれに見合った対価を示すことで、採用活動を優位に進めることができるものと考えます。今後は本部と連携し、園の求める職員体制を築くことが期待されます。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

職員のキャリア育成の視点として、特に「乳児保育の質の向上」を目指しています。年度目標について、「子どもが主体的に活動できる環境の構造化を図る／子どものやりたい気持ちを応援し尊重する」と掲げています。子どもにとっての視点をより大切に、遊びの展開を工夫するよう職員を促してきました。職員の理解が進んだことにより、個々の活動スペースを確保するとともに、2歳児のだだこねを受け止めるようになりました。今後は、園長以下職員がベビーマッサージのスキルを習得したり、ペアレントトレーニングや育児相談についても充実を図りたいと考えています。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

乳児保育の充実を図る視点を持つ一方で、幼児の教育プログラムについても特徴を持つことが求められます。特に接続期(就学前)の支援の在り方と子どもの姿について、どうありたいと思うか具体的にアピールすることで、保護者の満足度が変わってくるものと思われれます。保護者のニーズが子どもの成長に伴って変わる点についても、配慮していく余地が認められます。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>ホームページやパンフレットにより園の情報を発信しています</p> <p>園の案内としてホームページのほか、「入園をご検討中の皆様へ」という三つ折りパンフレットを発行しています。このパンフレットには、園の概要、入園申込・選考について、一日の流れ、年間行事予定、保育理念などの内容を記載しています。園のホームページには、保育について(保育内容・保育目標・異年齢交流・多世代交流)、園生活についてなどが紹介されており、年に1回更新し保育内容を伝えていきます。そのほか、保護者には毎週ブログを更新し、園の様子を伝えています。</p> <p>園の情報は市のホームページや情報誌にも掲載されています</p> <p>園の情報は三鷹子ども育成課に定期的に報告しており、同市のホームページや「幼稚園・保育園ガイド」に掲載されています。また三鷹市の発行する「子育て広場」の中にも、事業の内容が記載されています。そのほか、地域に向けて園外の掲示板にイベント情報などを掲載しています。</p> <p>入園希望者への見学会は8月～11月の期間に開催し、園内を案内しています</p> <p>入園希望者への見学会は、8月～11月の期間で随時開催しており、見学は主に園長・主任が担当しています。見学者には園の特徴として、園庭があることや、建物事自体が発達の差がある子どもへの配慮がされていることを説明しています。今後は社会情勢を見ながら、入園前の保育体験を実施していきたいと考えています。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入園が決まった利用者には事前に新入園児関係書類を郵送し、説明会を実施しています 入園説明会は、あらかじめ重要事項説明書や新入園児関係書類を郵送した上で、2月に開催しています。入園説明会では、園の保育内容について重要事項説明書同意書で確認し、プライバシーの保護については、個人情報等の取扱いについての同意書で確認しています。入園説明会であがった意見や質問は新入園児面談票に、把握した保護者の意向や園児の状況は、面談記録票にそれぞれ記録し保管しています。</p> <p>入園時には保護者や子どもの安心感を深めるため、慣れ保育を実施しています 入園前の子どもの生活状況や、アレルギーの有無・既往歴などは、児童票に記録し保管しています。入園時には、保護者や子どもの不安やストレスを緩和するため、0・1・2歳児は10日程度、3・4・5歳児は3～5日をめどに慣れ保育を実施しています。慣れ保育の期間中は、保護者の保育に対する理解や安心を深めるため、送迎時に口頭で子どもの様子を詳細に伝えたり、連絡帳を利用しています。なお慣れ保育中は、必要に応じて園児の慣れ親しんだ海外製のミルク・おしゃぶり・就寝時のタオルなどの持ち込みを許可しています。</p> <p>卒園後も運動会などの園行事に参加することができます 卒園前に退園や転園をする園児には、記念写真や4歳児からの卒園祝い制作物(卒園児)をプレゼントしています。また、転園先には必要に応じて、園児の情報を引き継いでいます。卒園後も兄弟などがいる場合などは、運動会などの園の行事に参加する様子もみられています。</p>			

サブカテゴリ-3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
3 個別状況の記録と計画策定			
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている		○非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある		○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している		○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している		○非該当
サブカテゴリ-3の講評			
園児の日々の様子や成長は定められた用紙に記載し、定期的集約しています 保育日誌は、0・1・2歳児の複写式連絡帳について個別に記録欄を設け、記載しています。児童票・日誌・連絡ノート以外では、健康カード・健康診断表・保健日誌を使用して、園児の成長を記載しています。また園児の個別の保育目標は、個別計画に記載しています。家庭や保護者の個別のニーズや支援方針は、個人面談記録、アレルギー面談記録、離乳食面談票に記載しています。そのほか児童票において、0・1歳児は毎月、2～5歳児は3か月に一度毎に情報を集約しながら記録しています。			
全体的な計画を基に、年・月・週・日の指導計画を作成しています 最新の全体的な指導計画は毎年3月に見直ししており、指導計画は、年間・月・週、日毎に作成しています。特に5歳児の指導計画については、月末の月間保育指導計画の振り返りなど、就学前教育カリキュラムとの整合性を意識しながら取り組んでいます。個別の指導計画は0・1・2歳児について作成していますが、2歳児クラス以上でも、生活において指導計画を立てて見直しを持った保育を行う必要がある場合は、個別に指導計画を策定しています。			
職員の情報共有に向けた定例会議や昼礼のほか、新たに専門会議を開始しています 保育サービスの品質向上や職員の情報共有のための会議体として、毎月の職員全体会議(園長・主任・保育士・栄養士が参加)のほか、毎日の職員ミーティングを行っています。加えて必要に応じて、保育士や栄養士が参加するクラス別会議を開催しています。また今年度から新たに、保護者支援など、テーマを分けたグループによる専門会議を実施しています。なお職員間の申し送りには、園日誌・クラス日誌・昼礼記録などを活用しており、これらの各種申し送り表は、事務所の鍵のかかる書庫に保管しています。			

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>個人情報について「個人情報の取り扱いの同意書」に沿って説明し、同意を得ています 個人情報などの取扱いについて、入園時の説明会にて「個人情報の取扱いについての同意書」に沿って説明し、確認しています。また突発的に個人情報を提供する必要が発生した場合は、都度保護者へ確認し、書面にて了承を得ることとしています。そのほか、園児の羞恥心に配慮した取り組みとして、トイレドアの設置や男女の着替えを分けて行うとともに、園庭で水遊びを行う際は外から見えないように目隠しを行うなど、配慮しています。</p> <p>左利き用のトイレを設置するなど、多様性を認めた園設計に配慮しています 園児の権利を尊重する取り組みについては、法人で整備しているガイドライン(子どもの人権)に則って対応しています。また、子どもと保護者の価値観や生活習慣を把握するため、夏まつりや保育参加(コロナ以前)を行っています。具体的に保護者の価値観に配慮した取り組み実績として、海外製のミルクしか飲めない園児について、個別提供を許可しています。そのほか、幼児用のトイレには左利き用のトイレを設置するなど、多様性を認めた園設計に配慮しています。</p> <p>虐待防止のガイドラインを整備するとともに研修や職員会議で職員の意識を高めています 虐待の発見と対応のため、ガイドライン(虐待防止)を整備するとともに、着替えの際にあざやケガなどの確認や、子どもとの対話に配慮しています。また虐待防止に向け、虐待の早期発見というテーマで毎年研修を行っています。さらに虐待に関するニュースなどが報道された際は、昼の会や職員会議により周知し、職員の意識を高めています。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>法人で整備している基本マニュアルのほか、園で独自にマニュアルを作成しています</p> <p>法人内で共通して作成・活用しているマニュアルとして、散歩・プール・実習生・ボランティア・行方不明時対応マニュアルを整備しています。また園で独自に、早番・遅番の仕事などのマニュアルを作成しています。マニュアルに沿った業務の実施状況は、都度、園長や主任が中心に確認しています。さらに、全職員にコンプライアンスコードを配付しており、職員は分からないことが起きた場合や、業務点検の手段として活用しています。そのほか職員に対して、昼の会や職員会議の中で、マニュアルの理解と活用を促しています。</p> <p>職員の実践事例や研修成果を基に、サービス向上につなげています</p> <p>園で整備しているマニュアルは、年度末の職員会議の中で見直しを行っています。マニュアルに示された業務の実施方法についての検討も、同会議で行われます。今年度、特に重点を置いて取り組んでいるのは、障害児教育・子ども主体の保育です。そのため、職員の実践事例や研修成果を基にサービス向上につなげています。具体的な事例として、障害児研修後の子どもへの声掛け方法の共有があります。こうした取り組みにより、職員の園児に対する接し方に変化が見られるようになったと園は感じています。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4																						
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況																						
		35 / 35																						
1	<p>評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(000000)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 70%;">標準項目</th> <th style="width: 15%;"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当		
評価	標準項目																							
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当																						
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当																						
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当																						
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当																						
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当																						
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当																						
評価項目1の講評																								
<p>落ち着いた雰囲気、発達支援が必要な園児も刺激なく過ごせる環境を目指しています</p> <p>保育環境のコンセプトは、「余計なものがなく、シンプルで落ち着いた環境設定」としています。園長が設計段階から「仕様書委員」として携わり、特に安全面や発達のバランスへの配慮を心がけました。落ち着いた壁の色や、壁面を必要最低限の装飾物にすることで、支援が必要な園児も刺激なく過ごせる環境になっています。また園内には、生活目的に応じた着替え・食事のスペースや、遊びに応じた、ままごと・ナーサリー文庫・段ボールリソーススペースなどのコーナーを設けています。職員は、園児自ら遊びを選択できる環境設定に工夫を凝らしています。</p> <p>戸外活動や朝夕の合同保育を中心に、日常的に異年齢で交流する機会を設けています</p> <p>幼児クラス(3・4・5歳児)は、各クラスを低い柵で区切っているため、いつでも行き来することができる環境となっています。また、戸外活動や朝夕の合同保育は異年齢で過ごす機会となっています。こうした関わりの中で、給食の介助・着脱・寝かしつけなど、年上の子どものが年下の子どもの生活の手伝いをする姿が見られています。そのほか、国内各地や海外の文化に親しむ機会として、給食における郷土料理や海外料理の提供を行っています。</p> <p>園児同士のトラブルは、発達の段階に合わせた対応を行っています</p> <p>要支援児の保育に際しては、三鷹市子ども発達支援センターなどの専門機関や、言語聴覚士・作業療法士などの専門職の指導・助言を受けながら対応しています。発達の過程で生じる園児同士のトラブルは、年齢に合わせた対応に配慮しています。特に0・1・2歳児については、負の感情が連鎖してしまわないように早めに職員が仲介しています。園児同士のトラブルや事故が発生した際は、事故報告書(保育)、ヒヤリハット報告書に記録し、保管しています。そのほか、就学支援に向けた取り組みとして、園長と担任が小学校に訪問し情報交換を行っています。</p>																								

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>登降園時の保護者とのコミュニケーションで、園児の様子を共有しています 連絡ノートは、0・1・2歳児で毎日取り交わしており、登園時には毎回、保護者へ健康状態・体温チェック・視診での確認のほか、お迎えの時間と人を確認しています。登園時に保護者から得た情報は、職員会議や昼礼の中で職員間で引き継いでいます。また降園時には毎回、保護者へ園での一日の様子を伝えています。なお当日の活動の様子は、連絡ノート以外にも活動日誌や毎週のブログでも伝えています。</p> <p>2種類のトイレ設置など、個々の発達の段階に合わせた生活環境を整備しています 園児の発達の段階と支援の方法は、個別経過記録や学研アプローチに記載されており、基本的な生活習慣については、個別指導計画に基づき指導しています。食事については、個々の発達に応じて咀嚼・姿勢・食具の持ち方など時期や方法を考慮し、指導しています。歯磨きについては、年に1度、歯磨き指導の会を実施しています。また排せつ指導については、2歳児室に乳児用と幼児用の2種類のトイレを設置するなど、個々の発達の段階に合わせて選択できるような環境を設定しています。</p> <p>午睡で眠れない園児のための環境整備を強化したいと考えています 午睡時間は、乳児は12時～14時半、幼児は13時～14時半で設定しています。午睡の際は、布団・敷きタオル・バスタオル・毛布などの寝具を使用しています。午睡時間に眠れない子がいた場合は、保育室の一角や、ナーサリー文庫のスペースなどで静かに過ごしてもらっています。今後、眠れない子どものリソーススペースとそこに関わる職員を確保し、心理的にも安全・安心を提供したいと考えています。そのほか、5歳児の就学準備として、1月から午睡をなくしています。</p>		

3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3の講評		
<p>園児が主体的に取り組み、リーダーシップを発揮する機会を設けています</p> <p>当園は、大人の声ではなく子どもの声が溢れる保育室を目指しています。そのため、当番活動・栽培活動・夏祭り・クリスマス会など、園児たちが主体的に取り組める集団プログラムに注力して取り組んでいます。3歳児から開始する当番活動は、日直を2名設定し、給食の際のあいさつやお帰りの会の進行を行うなど、生活の切り替えの場面でリーダーシップを発揮する機会となっています。また、職員は「Calm(カーム/穏やかに)・Close(クローズ/近くで)・Quiet(クワイエット/静かに)」をベースに園児に対応するよう心がけています。</p> <p>教材室には全年齢が使用できるさまざまな巧技台や教材が収納されています</p> <p>園内に設置している教材室には、全年齢が使える巧技台や教材が多く収納されており、さまざまなツールを使用し、活動できる環境となっています。また園児の言葉に対する感覚を養うためのプログラムとして、もじかずランド・生活発表を行っています。身体を使った表現力を育む機会としては、スポーツチャンバラ・戸外活動・室内運動・運動会などを行っています。そのほか、朝の会では、毎日ピアノを引いて3・4・5歳児合同で歌を歌うなど、音楽に触れ合う機会も設けています。</p> <p>天気の良い日はほぼ毎日散歩に出かけ、近隣の公園でさまざまな活動を行っています</p> <p>園庭では、三輪車・ボール・フラフープ・鬼ごっこなどの集団遊びを行っています。また、天気の良い日は毎日散歩に出かけ、近隣の公園の遊具や砂場で遊んだり、マラソン・リレー・ドッチボールなどの活動を行っています。なお園内のプランターで、キュウリ・ナス・シイタケ・マトなどを栽培しており、園児たちは植物の生長を見守りながら過ごしています。そのほか、5歳児室では毎年カブトムシを飼育しています。</p>		
4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している	評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4の講評		
<p>行事は特別なことではなく、日々の活動の延長線上として開催しています</p> <p>年間行事として新年会・節分・ひな祭り・クリスマス会の季節行事のほか、子どもの成長や保育の成果を発表する機会として、運動会を行っています。行事については、特別なことではなく、毎日やっていることの延長で行うよう配慮しながら実施しています。また、行事に向けて園児の興味や関心を高めるための工夫として、行事にまつわる絵本・紙芝居の活用やパネルシアターなどを行っています。そのほか、園児が行事を振り返ったり記憶したりすることを支援する取り組みとして、思い出の絵を描いたり、思い出の発表を行っています。</p> <p>年間行事予定表のほか、各種たよりやブログなどで行事の詳細を保護者に伝えています</p> <p>年間行事予定表は4月に配布し、行事毎の目的は園だより・クラスだより・ブログで保護者に伝えています。保護者が参加・見学できる行事として、夏祭り・運動会・保育参加を実施しています。今年度、園庭で行った運動会は、保護者の方に園児の成長を見てもらう機会となり、大変喜ばれています。そのほか、保護者が参加していない活動については、ブログ・アプリ・DVD回覧で伝えています。</p> <p>誕生日のメニューは園児のリクエストを聞いて提供しています</p> <p>園児の誕生日会は、クラス単位でお祝いしており、インタビュー・誕生日参加の出し物・歌・パネルシアターなどの出し物を行っています。また園児の誕生日会で出す食事は、誕生日メニューとして、唐揚げ・ハンバーグ・ケーキなど、子どもの好きな物を提供しています。なお誕生日メニューは、事前に園児のリクエストを聞いて、希望に沿うように配慮しています。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目5の講評

園内装飾や職員の関わり方に配慮し、園児が落ち着いて過ごせる環境を整備しています

園児が安心してくつろげるよう園内の装飾を控えるなど、落ち着ける環境を設定しています。また日中疲れてしまった園児がいた場合は、必要に応じてゴザを敷き休憩スペースを作ったり、医務室のベッドで休憩することが出来ます。一人きりになりたい園児がいた場合は、一人で遊べるコーナーを設定することもできます。職員は「Calm(カーム/穏やかに)・Close(クローズ/近くで)・Quiet(クワイエット/静かに)」に配慮しながら園児に関わるなど、園児が安心できる環境作りに努めています。

延長保育では、少人数の異年齢でじっくり遊べる玩具を用意しています

延長保育については、乳児は朝8時半・夕方17時、幼児は朝9時・夕方16時にクラス別保育から合同保育に切り替わります。延長時間帯の合同保育は、1歳児保育室で行っています。合同保育では少人数の異年齢で、普段遊べないブロックパズルやくるくるチャイムなどの玩具を用意し、じっくりと遊ぶことができますようにしています。職員は、異年齢や兄弟同士で楽しめるような声かけや体調への配慮など、園児の気持ちに寄り添いながら対応するよう努めています。

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当

評価項目6の講評

食事は十分にスペースを取るなど、落ち着いて食べられるよう配慮しながら行っています

食事は、0・1歳児は遊びと食事のスペースを分けて行い、園児がお互いの食べる姿を見られるよう、机の配置などを工夫しています。幼児クラスにおいては席を固定し、一人ひとりのスペースを十分にとるなど、落ち着いて食事ができる雰囲気・環境作りに配慮しています。そのほか、栄養士や調理師は、毎日園児と触れ合いながら配膳などに参加し、喫食状況を確認しています。

アレルギー食は給食マニュアルに沿って提供し専用食器の使用などで誤食を防いでいます

食事に使用する食材は、なるべく旬のものや色合いを重視して提供しています。また行事食では、園児たちが行事について興味を持ち、楽しく食事ができるよう献立を考え、提供しています。なお利用者の嗜好把握については、給食会議の中で検討しています。そのほか、食物アレルギーのある園児については、給食マニュアルアレルギー編に沿って完全除去食を提供し、専用テーブルで食事を行っています。提供の際は専用食器を使用し、誤食を防いでいます。

食育計画に沿って、1歳児から年齢に合わせた調理体験を開始しています

食文化を深める食育活動の一環として、行事食・郷土料理・異文化メニューの提供を行っています。また食事をバイキング形式で提供する機会として、クリスマス会を実施(現在休止中)しています。さらに食育を目的として、プチトマト・なす・きゅうりを栽培しています。栽培した野菜や果物は、茄子のみそ炒めやきゅうりの塩漬けなどの料理に使用しています。調理体験は1歳児から開始し、1・2歳児はピーマンの種取りやうどん踏み、3～5歳児はおにぎりを握ったりホットケーキなどを調理しています。

7	<p>評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>園児の安全への意識を高めるため、日常の健康指導やさまざまな訓練を実施しています</p> <p>園児の防災・防犯意識を高める取り組みとして、引き取り訓練・不審者訓練・自然災害想定訓練(地震・火災・水害)を行っています。また交通安全に向けた指導として、外部業者による交通安全教室を開催しています。さらに園児の健康指導として、歯科衛生士による歯磨き指導を行っています。そのほか、園内の事故・怪我防止に向けた対策として、ヒヤリハット報告書や事故報告書を職員間で回覧し、情報共有と再発防止を図っています。</p> <p>看護師が毎日各クラスを見回り、園児の状態を観察しています</p> <p>園児の健康状態を把握するため、0歳児は毎月、1～5歳児は年2回の健康診断を実施しています。また看護師が毎日各クラスを回って、園児の様子を確認しています。元気がない園児がいた場合は、担任保育士と密に連絡を取りながら対応しています。与薬は基本的に行っていませんが、熱性けいれんなどで、医師の指示がある場合は、薬を預かっています。なお与薬を行う場合は、与薬依頼書や薬剤情報提供書を提出してもらっています。</p> <p>保健だよりを毎月発行し、子どもの健康や感染症に関する情報を発信しています</p> <p>感染症や家庭での生活について掲載した保健だよりを毎月発行しています。園内で感染症が発生した場合は、園内掲示により情報を提供しています。また午睡時は、視診や触診(胸に直接手を当てて確認)で健康状態をチェックし、SIDSチェック表に記録しています。そのほか、感染症やSIDSに関する研修として、職員を対象にガイドライン感染症研修や嘔吐処理勉強会を実施しています。</p>		
8	<p>評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の意向はアンケートや毎年2回の個人面談で把握しています</p> <p>子育てに関する保護者の価値観や就労状況については、新入園児面談票・児童票・入園までの生活状況・延長保育利用申請書に記録し、把握しています。保育園の日常的なサービスに係る保護者の意向については、行事後にアンケートを実施し、把握しています。なお保護者とは年2回(6月・12月)、個人面談を実施しています。そのほか、保護者対応に関する接遇マニュアルとして、運営ガイドライン(服務規程・保育の手引き)を整備し、初任者研修などで職員に伝えています。</p> <p>保護者の代表が参加する運営委員会は園の活動について直接意見を伺う機会となっています</p> <p>保護者間の交流を促進する取り組みとして、クラス懇談会を実施しています。また保護者の代表が参加する年2回の運営委員会では、園活動について直接意見を伺う機会となっています(うち1回は書面開催)。そのほか、保護者と職員の信頼関係を深めるための取り組みとして、保護者会(年1回)・個人面談(年2回)のほか、保育参加を実施しています。保育参加は、年間を通して随時受け入れを行っています。</p> <p>保育士体験を開催し、保護者と保育に対する共通認識を深めています</p> <p>子育ての考え方について、園と保護者のお互いの理解を深めるための取り組みとして、連絡帳でのやりとりおよび個人面談・クラス懇談会を実施しています。また毎月発行している園だよりでは、離乳食やトイレトレーニングの進め方などの情報提供をしています。そのほか保護者を対象に、保育士体験を開催しています。子どもと一緒に散歩に行ったり、食事の介助をもらうなど、実際の保育士の仕事を体験してもらうことで、保育に対する共通認識を深めています。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>保育実習生・ボランティア・職場体験の受け入れを通し、多様な交流を促進しています</p> <p>戸外活動では、自然豊かな武蔵野市の公園と、遊具が充実している三鷹市の公園をそれぞれ利用しています。また、保育実習生・ボランティア・職場体験の受け入れを通し、園児が職員以外の人と交流する機会を作っています。なお定期的なボランティア活動として、毎月絵本の読み聞かせをお願いしています。そのほか、5歳児は小学校に見学に行くなど、就学に向けた取り組みも行っています。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	設計段階から専門的な意見を取り込むことで、多様性を認めた園設計となっています	
内容①	園の設立にあたって、設計段階から現園長が「仕様書委員」として携わり、特に安全面や発達のバランスについて、専門的な意見を取り入れた設計となっています。園内は落ち着いた色の壁紙・壁面を採用し、必要最低限の装飾物にすることで、発達支援が必要な子どもにも刺激なく過ごせる環境になっています。また2歳児室には、乳児用と幼児用の2種類のトイレを設置しており、個々の発達の段階に合わせて選択することができます。そのほか、幼児用トイレには左利き用のトイレを設置するなど、多様性を配慮した設計が評価されます。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-2	子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている
タイトル②	子どもの声が溢れる保育室を目指し、子ども主体の保育を実践しています	
内容②	当園は、大人の声ではなく子どもの声が溢れる保育室を目指しています。そのため、当番活動・栽培活動・夏祭り・クリスマス会など、園児たちが主体的に取り組める集団プログラムに注力して取り組んでいます。3歳児から開始する当番活動は、日直を2名設定し、給食の際のあいさつやお帰りの会の進行を行うなど、生活の切り替えの場面でリーダーシップを発揮する機会となっています。そのほか、戸外活動や朝夕の合同保育を中心に異年齢で過ごす機会を設け、園児の憧れや思いやりの気持ちを育てています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル③	配慮が必要な園児の支援は、専門機関との連携や職員の研修参加などに注力しています	
内容③	職員は障害児研修に参加し、子どもへの声かけ方法などを学んでいます。実際の要支援児の保育に際しては、三鷹市子ども発達支援センターなどの専門機関や、言語聴覚士・作業療法士などの専門職の指導・助言を受けながら対応しています。発達の過程で生じる園児同士のトラブルについては、特に2歳児について、負の感情が連鎖してしまわないように早めに職員が仲介するなど、年齢に合わせた関わりに配慮しています。園児同士のトラブルや事故が発生した際は、事故報告書(保育)、ヒヤリハット報告書に記録し、保管しています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	発達の気になる子どもに配慮してリソーススペースの設定やCCQの徹底を図り、全ての園児が落ち着いて過ごせる環境を整えています
	内容	園内に「保護者支援・子ども主体の保育・各行事の役割分担」をテーマとした研究グループを設けています。そのようなプロセスを経て、乳児に個別の座布団を用意したり、段ボールを使ったリソーススペース(気持ちを落ち着けることが出来る空間)を設けたことがあります。また、多様性のある子どもに配慮して保育環境を整えるとともに、CCQ(「Calm/穏やかに、Close/近くで、Quiet/静かに」の略)を意識したコミュニケーションの徹底を図っています。発達の気になる子どもへの配慮により、全ての園児が落ち着いて過ごせています。
2	タイトル	設計段階から園長が「仕様書委員」として携わり、専門的な意見を取り込むことで多様性を認めた園設計となっています
	内容	園の設立にあたって、設計段階から園長が「仕様書委員」として携わり、特に安全面や発達のバランスについて、専門的な意見を取り入れた設計となっています。園内は落ち着いた色の壁紙・壁面を採用し、必要最低限の装飾物にすることで、発達支援が必要な子どもも刺激なく過ごせる環境になっています。また2歳児室には、乳児用と幼児用の2種類のトイレを設置しており、個々の発達の段階に合わせて選択することができます。そのほか、幼児用トイレには左利き用のトイレを設置するなど、多様性を配慮した設計が評価されます。
3	タイトル	法人および園でそれぞれマニュアルを作成するとともに、全職員にコンプライアンスコードを配付し、業務の標準化を図っています
	内容	法人内で共通して整備している、散歩・プール・実習生・ボランティア・行方不明時対応マニュアルのほか、園で独自に、早番・遅番の仕事などのマニュアルを作成しています。さらに、全職員にコンプライアンスコードを配付しており、職員は分からないことが起きた場合や、業務点検の手段として活用しています。今回の第三者職員自己評価「手引書等の整備、事業所業務の標準化への取組み」の設問では、リーダー層で100%、一般職員で88.9%の方が「はい」と答えており、高い理解度が確認されました。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域に開かれた園になるために、保育ボランティア・職場体験・育児相談を積極的に受け入れたいと考えています
	内容	三鷹駅から程近くに位置しながら、園周辺は商業地域から外れた住宅地内にあり、交流の対象になる施設がありません。また2019年度の開園以降、保育体制の整備を優先して取り組みつつ、新型コロナウイルス感染症の流行が影響し、地域との接点を紡ぐことが思うようにできていませんでした。今後は地域に開かれた園となるために、保育ボランティア・職場体験・育児相談を積極的に受け入れていきたいと考えています。具体策の検討と取り組みの進捗に応じて、地域内での存在感を発揮していられるものと思われれます。
2	タイトル	インターンシップの導入や職員紹介制度の拡充にチャレンジしながら、安定した保育体制の整備しようとしています
	内容	保育の質の向上と職員のキャリア育成の前提として、安定した保育体制の整備を目指しています。そこで、就職フェアへの出展や学校訪問を行い、職員の採用につなげる活動を行いました。しかし、目標として掲げる人数の採用には至っておらず、継続した取り組みが必要となっています。今後はインターンシップの導入や職員紹介制度の拡充にもチャレンジしていく意向を示しており、その実行と成果が期待されます。
3	タイトル	育児の考え方や関わりについて学ぶ機会を提供することで、保護者の育児支援につなげることを目指しています
	内容	子育てに関する保護者の価値観や就労状況については、新入園児面談票・児童票・入園までの生活状況・延長保育利用申請書に記録し、把握しています。加えて、保育園の日常的なサービスに係る保護者の意向については、行事後のアンケートを実施し、把握しています。把握した状況から、育児で困っている家庭へサポートしていきたいと考えています。ペアレントトレーニングなどを学ぶ機会も提供し、育児の考え方や関わりについて理解を深めることで、保護者の育児支援につなげることを目指しています。